

どんな公園に？

射撃場を撤去した土地に、私たちはみんなが安心して遊べる公園を求めます。

この土地は、都市計画法に基づく岐阜市風致地区条例において、金華山ー長良川風致地区に指定されています。

指定理由に「市街地隣接部にあつて自然林を形成する貴重な樹林であり、市街地の借景として良好な自然景観を形成している」としています。

近くの達目洞では絶滅危惧種のヒメコウホネが生育し、生物多様性が保全された貴重な地域となっています。



ヒメコウホネ



金華山山麓 だちぼくほら 達目洞



達目洞を流れる 逆州

金華山の麓に連なるこの地は、織田信長の歴史を秘めた地でもあります。

この魅力ある地の自然と歴史と文化を誰でも学べるちいさな「博物館」の設置・・・樹林の復元と散策道が整備された公園・・・夢が膨らみます。みんなで考えてみませんか？

日野射撃場 を撤去し、 公園にする みんなの会



● 共同代表
篠田久美子 佐藤八重 和田玲子 西村延公

● 事務局
〒500-8879 岐阜市徹明通 7-13
岐阜県教育会館 303号
岐阜県平和委員会 058-242-9701



2023年11月8日 自衛隊守山駐屯地に要請



毎週月曜日 日野射撃場前スタンディング



2024/2/24

学習会/集会

2024/4/7

長森コミュニティセンター

おさそい

2023年6月、自衛隊日野基本射撃場において隊員による銃撃殺傷事件が発生しました。緑に囲まれ静かな住宅地域に起きたこの事件は、住民を大きな不安に陥れました。

この射撃場の土地は、戦争が終わり平和日本が築かれようとする1951年、岐阜市が都市計画公園として決定した土地でした。

しかし、「自衛隊の射撃場使用」は、旧国立岐阜病院関係者の射撃訓練反対、岐阜市長の移転要望、覆道化など、さまざまな経過を経ながらも続き、今日に至っています。

住宅地域に武器を持ち込み訓練をすることは、住民のいのちを巻き添えにする危険をはらんでいます。私たちは、こんな危険を次世代に残したくありません。

私たちは速やかに日野射撃場を撤去し、市民のだれもが安心して使える公園を求めて、「日野射撃場を撤去し、公園にするみんなの会」を結成しました。ぜひ、ご参加ください。

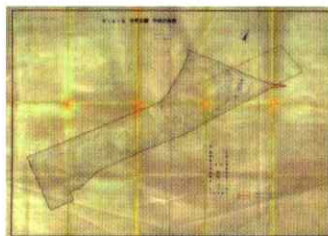
(日野射撃場の位置)



日野射撃場は都市計画公園の地

日野射撃場は明治時代から陸軍68連隊の射撃訓練場として使われてきました。戦争が終わり一時米軍が使用しましたが、引きあげました。

岐阜市は1951年6月7日付け（建設省告示第591号）にて都市計画公園（日野公園）として決定しました。



日野公園
平面計画図

歴代の岐阜市長は移転・撤去を求め公園化を目指しました。



1961年5月25日

岐阜日日新聞

また歴代の岐阜市長は一貫して射撃場の移転・公園化を求めてきました。

1973年4月上松市長は公園化のために「日野射撃場の無償払下げ」を防衛施設局に申請して

います。

日野地域における宅地開発等市街化の進展、国道156号線バイパス計画の決定、土地区画整理事業の進行する中で、1986年2月4日蒔田市長は防衛庁長官に対し「岐阜日野射撃場について(要望)」を提出。

射撃場の移転を要望するとともに「日野公園の早期実現」の決意を述べています。

射撃場の「覆道化」をめぐる

銃撃音問題が深刻化する中、2001年自衛隊は「覆道化」を提案。住民世論は「静かになればよいのではないか」と容認する人と「射撃場の恒久化につながるもの」として反対する人に分かれました。

2014年「覆道化」は、移設可能なプレキャスト構造とすることで完成しました。「覆道化」で、銃撃音問題は解決し射撃場問題は鳴りを潜めました。

銃撃殺傷事件の発生

しかし、2023年6月14日隊員3人が自動小銃で撃たれ死傷。自衛隊員による銃撃殺傷事件が発生しました。

住宅地域に武器を持ち込み訓練をすることは、住民のいのちを巻き添えにする危険をはらんでいます。

私たちは速やかに日野射撃場を撤去することを防衛省に要求します。

そして、岐阜市長に公園整備の毅然とした決意を求めます。